

生徒の主体的な学びの姿勢を育てるために
～千葉県における高大連携への提言～

高等学校と大学との連携の在り方に関する協議会

目 次

はじめに	1
1. 千葉県における高大連携の実態	
(1) 高大連携に関する実態調査の結果について	2
(2) 大学による模擬授業受講者の意識について	4
①千葉県教育委員会と千葉大学教育学部との連携事業アンケート結果	4
②高大連携実施校の卒業生からのヒアリング結果について	6
2. 高大連携に関する考え方の整理	
(1) 高大連携の目的・効果	8
(2) 高大連携の形態	10
(3) 高大連携の内容	12
(4) 就職を希望する生徒にとっての高大連携の意義	14
(5) 高大連携と入学者選抜との関係	15
3. 未実施校はどのように高大連携の取組を始めるか	
(1) 高校側での検討	
①各校の教育目標との明確な関連付け	16
②生徒が参加する動機とニーズ	17
③想定される連携内容	18
④教育課程への位置付け	20
(2) 大学への要請と合意形成	
①大学への連携申し入れ	21
②単位認定	22
③実施に要する費用	23
④協定の締結	24
4. 高大連携の普及・発展の方策	
(1) 高大連携普及の課題と教育委員会の役割	
①地域間格差とICT（情報通信技術）の活用	26
②魅力ある高等学校づくりと高大連携	27
③教育委員会に期待される役割	27
(2) 実施校はどのように高大連携の発展を図るか	
①連携事業の不断の見直し	29
②高大の教員相互交流	32
(3) 今後の高大連携の在り方について	34
おわりに	37
高等学校と大学との連携の在り方に関する協議会委員名簿	38
高等学校と大学の教員等の交流会委員名簿	39
(参考Ⅰ) 高大連携に関する実態調査の結果	40
(参考Ⅱ) 千葉県教育委員会と千葉大学教育学部との連携事業アンケートの結果	51
(参考Ⅲ) 高大連携実施校の卒業生からのヒアリングの結果	60

はじめに

近年、高校生による大学教員の模擬授業の受講、大学の施設の利用等を始めとする「高大連携」の取組が全国で盛んに行われるようになってきている。

これは、政府の審議会答申等により高校と大学との接続の在り方に対する関心が高まってきたことや、18歳人口の減少で大学が入学者確保により力を入れる必要が出てきたことなど、様々な要因が背景にあるものと考えられる。

また、千葉県教育委員会においては、生徒がその個性を最大限に発揮できるよう、魅力ある高等学校づくりを目指して様々な施策を推進しているところであり、千葉県内の多くの高等学校でも様々な高大連携の取組が行われているところである。

このようなことから、千葉県教育委員会は県内における高大連携の実態を踏まえ、千葉県における高大連携の在り方について検討するため、平成19年度から2か年にわたり、文部科学省委嘱事業「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の委嘱決定を受け、「高等学校と大学との連携の在り方に関する実践研究」を行うこととなった。

そして、同実践研究を行うため、高等学校長、大学理事等から構成される「高等学校と大学との連携の在り方に関する協議会」、及び高校、大学の教職員等から構成される「高等学校と大学の教員等の交流会」が設置された。

これまで2年間の実践研究において、同協議会が千葉県における高大連携の方向性について議論するとともに、同交流会が実務者の立場からその検証を行ってきた。

さらに、これらの議論が県内の実態に即したものになるよう、高大連携に関する実態調査により、県内の公立高校において行われている高大連携の取組を調査するとともに、高大連携講座の受講生に対する事後アンケートを行った。加えて、同交流会では高大連携実施校の卒業生からのヒアリングも行った。

本提言は、実践研究の成果として、

- ①高大連携を実施していない高校はどのように取組を始めるか
- ②高大連携を実施している高校はどのようにレベルアップを図るか

といった観点から、同協議会・同交流会が議論してきた内容をまとめ、これからの千葉県における高大連携の方向性の提言を行ったものである。

未実施の高校において高大連携の実施が検討され、実施校においては、その取組のさらなる発展が図られるよう、本提言が活用されれば幸いである。